

シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第11回

中部森林管理局技術普及課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

「伐木事業所」

伐採が行われている地域の前線基地とも言うべき場所が伐木事業所(會所)です。伐採された



明治時代末頃の伐木事業所
(現在の木曾森林管理署管内)

木が山から運ばれる際の拠点でもあります。担当の役人(掛官)の事務所としての機能と、現場の人達の宿泊地としての機能がありました。山中の作業小屋(和小屋)よりはしっかりとしているものの、それでも恒久的な施設ではありませんでしたから、簡素な造りであったことには違いありません。働く組ごとの小屋



昭和10年頃の人夫小屋
(現在の飛騨森林管理署管内)

で寝泊まりし、上下関係の厳しい規則があったようです。伐木造材に携わる「杣」、運材に携わる「日雇」の他にも、掛官の補助員、炊事を担当する炊事手、手伝いの小僧さんなどが働いていました。



昭和30年頃の製品事業所
(現在の木曾森林管理署管内)

時代とともに施設の名称や形態も変わり、伐採事業所、製品事業所などへと繋がりました。やがて国有林野事業で直営による木材生産を縮小する時代を迎えると、こうした種類の施設は消えていくこととなります。

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。

これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。

当サイトへは、QRコードを読み込んでください。

